

| | | | |
|----------|-----------------------|----------------------|--|
| a 学校教育目標 | みはらミライの挑戦 ーレッツ チャレンジー | b 経営理念 ミッション・ビジョン | 【ミッション】(自校の使命) 子どもたちの未来を保障し、地域とともにある学校 【ビジョン】(自校の将来像) 自分の未来、愛するふるさとの未来を創る教育活動を創造する。 |
|----------|-----------------------|----------------------|--|

| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | | 改善方針 | | 学校関係者評価 | | | |
|---------------------------------------|-----------------------|--|---|---|---|--|--|--|--|---|---------|----|-----|---|
| c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策等 | f 評価項目・指標 | g 目標値 | 10月 | 2月 | i 達成度 | j 評価 | k 結果と課題の分析 | n 改善方針 | l 評価 | | | m コメント |
| | | | | | h 達成値 | h 達成値 | | | | | 適正 | 不明 | 不適正 | |
| 確かな学力の育成 自ら考え、自ら学びに向かう児童の育成 | 学び力の土台づくり(基礎・基本の定着) | 桜山・柳の坂タイムによる基礎の回復や個別指導の充実 | ①国語科・算数科の学期末テストの平均90点以上の児童の割合(低学年)、80点以上の児童の割合(3年生以上) ②NRT各教科の標準偏差 | ①90%以上(低学年) 80%以上(3年生以上) ②市平均+0.5ポイント | ①1・2年生国語:85.8% 算数:85.8% 3年生以上国語:82.4% 算数:83.1% | ①1・2年生国語:80.3% 算数:92.95% 3年生以上国語:82.3% 算数:82.4% | ①1・2年生国語:89.2% 算数:103.2% 3年生以上国語:102.9% 算数:103% | B | ①低学年は、国語科において目標を達成することができなかった。前期に引き続き、知識技能の分野(漢字や語句や語彙など言葉に関する問題)に課題が見られた。算数科でも、前期同様、何を聞かれているかがとらえきれず誤答する児童が複数見られた。また、3年生以上では、全体を合計すると目標を達成することができたが、70%台に達成率が留まった学年もある。国語科の方が課題が大きい。学期末の漢字は到達率が高いが、文章を読み取ったり、語彙を問われる問題に関しては到達率が低い。 ②12月に標準学力調査を行ったが、現時点での結果は出ていない。目標を達成するために、朝学習の内容や模擬テストや解説の時間をカレンダーに明記し、計画的に対策を行った。 | ・国語科の漢字や語彙を習得し、初めて読む文章でも内容を正しくとらえられるように、αドリル国語を各学年の朝学習で活用する。 ・算数科の四則計算の定着に向けて、プリントや市販のドリルを活用し、桜山タイムでの反復学習を徹底して継続する。さらに、問題を解いた後には見直しをすることを徹底する。 ・全ての児童を鍛えるために、担任と担任外の教員が連携して、組織的に学力補充の時間を実施することを継続する。 ・児童が問題の情報を整理するために、どの教科においても、問題に線を引きたり印をつけたりする取組を今後も行う。 ・来年度に向けて、算数において、全国学力調査と標準学力調査の問題を再度分析し、各単元の学習計画に組み込みむことで、活用問題への対応力を鍛えていく。 | ○ | | | ○学力テストの結果が前回より上回っており、先生方の努力の賜物である。学力向上に繋がった活動は何だったのかを的確に分析し、継続的な学力向上に繋げていってほしい。 ○基礎基本の定着は子供の学力保障の原点として必須であり、日々の授業の質をさらに高めて、子供に力をつけて頂きたい。 ○授業改善された結果が表れているのは素晴らしい。ティーンズ塾や地域の方を巻き込んだ「三原小グループ活動」をさらに積極的に進めて、学力向上につなげていってほしい。 |
| | 学び力の向上 | めざす子供像「学び続ける子供」に向けた、「ミライプランadvance」を活用した授業づくりや相互参観・研究授業の実施 | ①児童アンケートにおける肯定的回答の割合「授業で学んだ大切なことを考え、ふりかえり(R80)を書くことができています」「自分に合った学び方を考えて、自分から工夫して勉強している」 ②算数科の単元づくりを学期に1回以上 | ①85%以上 ②100% | ①100% ②100% | ①107% ②100% | A | ①全学年で目標を達成することができた。特に「授業で学んだ大切なことを考え、ふりかえり(R80)を書くことができています」という質問に対し、全校の92.8%の児童が肯定的回答をすることができた。うち53.7%の児童が強い肯定を示したことから、肯定的回答をした児童のうち半数以上の児童がR80を活用して自信をもって授業を振り返っていると見える。 ②前期同様どの学年も、学期に1回以上算数科の単元づくりに取り組むことができた。一人一授業を算数科で統一して行っている成果である。 | ・児童が自信をもってR80を書いたり、学び方を自ら考え、工夫して勉強したりしていることと回答できるよう、以下の3点に引き続き取り組む。 ア:逆向きの授業設計を行い、本時のめざす姿(R80)を明確にした授業づくりを1時間でも多く実施する。 イ:7チャレンジシートを活用した学び方の自己選択の場や算数モニターを發揮しながら主体的に学ぶ場を、意図的に仕組んでいく。 ウ:授業改善に向けて、相互参観や授業研究において授業改善シートをもとに忌憚のない意見を伝え合う。 ・自律した学習者の育成を目指して、「ミライプランadvance」の単元構成で、引き続き算数科の単元開発に取り組む。 | ○ | | | | |
| 豊かな心の育成 自己肯定感が高く、仲間と共に本気で挑戦する児童の育成 | つながり力の向上 | めざす子供像「自分と人を大切にする子供」に向けた、仲間と関わり合い、認め合い、高まり合う集団づくり活動の実施 ・学年目標の達成に向けた連続性のある活動 ・充実した縦割り班活動 ・計画的な特活研修 | ①児童アンケートにおける肯定的評価の割合「自分のよさを知っている」「クラスの仲間の全員のよさを1つずつはわかる」「クラスのため、学年のため、学校のために、一緒に高まろうとしている」 ②自己実現に向けたフィードバックの実施率「学年目標に対する日々のフィードバックを週1回以上」 「学年目標にリンクした行事の目標のフィードバックを行事ごとに」 | ①85%以上 ②90% | ①88.2% ②85.4% | ①90.7% ②83.4% | ①106.7% ②92.7% | B | ①肯定的評価の割合に着目すると、「自分のよさ」においては、83.2%となっており、目標値に達していなかったものの、10月よりも数値は上がっていた。「クラスの仲間の全員のよさ」においては、95.3%となっており、目標値に達していた。「クラス、学年、学校のため」においては、93.5%となっており、目標値に達していた。特に高学年においては、学校行事や委員会活動、縦割り班活動等で、学校のために活動する場面が多かったことが、高い肯定的評価につながっていると考えられる。 ②実施率に着目すると、「学年目標に対する日々のフィードバック」においては、77.8%、「学年目標にリンクした行事の目標のフィードバック」においては、88.9%となっており、両項目とも目標値に達していなかった。行事にむけては、学年目標とリンクして指導ができていて、一方、日々の指導のところまでは意識を統一して指導ができていなかった。 | ・児童一人一人の自己肯定感を向上させるために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:互いの個性に触れ合うことができるように、自己評価や他者評価の場を授業や朝・帰りの会ですらに充実していく。 イ:自他のよさに気づくことができるように、学級活動における係活動を継続的・創造的に実施したり、学期に数回程度構成のグループエンカウンターを継続して実施したりする。 ウ:仲間と共に達成感を味わうことができるように、週3回の縦割り班掃除では、役割を明確化して協力的に取り組んだり、学期に数回、縦割り班でのイベントを実施する。 ・学年目標に向けて学年が丸となって取り組めるように、学年間の連携をこれまで以上に密にし、学年目標に基づいた行動目標を、日々の授業や生活場面、学校行事において掲げ、そして振り返りを行っていく。 ・職員一人一人の学年経営及び学級経営の力を高めていくために、来年度も特活の研修を月に1回以上実施する。 | ○ | | | ○縦割り班活動のメリットは大きいと感じた。幼少期から上下の関わりに慣れることで、個を知り、個を許容できる人に成長できる。それが社会を生きる基礎となる。今後も、ぜひ、この活動を継続してほしい。 ○豊かな心のベースは、まずは担任教師との愛着関係だと思っており、愛のある学級経営を今後も期待している。 ○自分のよさを知ることは相手のことを考えるきっかけにもなり良いと思う。 |
| | 自分力の土台づくり(運動習慣の定着) | 魅力的な わんぱくタイムの実施 | 児童アンケートにおける肯定的評価の割合「体を動かすことが好き」 | 90%以上 | 1~3年生 94.3% 4~6年生 85.1% | 1~3年生 93.5% 4~6年生 88.6% | 1~3年生 103.8% 4~6年生 98.4% | B | 低学年は目標値を達成することができた。わんぱくタイムの内容が低学年の実態に合っていたと思われる。高学年は、目標値を達成できなかった。一方で、10月からは3%程増加している。その原因として、わんぱくタイムにおいて年齢層の実態を優先し、低・中・高の近い学年での活動となり、自分たちの活動量にあったものができたことがあげられる。課題としては、運動習慣のない児童が高学年に上がるにしたがって増加していることへの直接的な改善策が打てていないことである。 | ・全学年で「体を動かすことが好き」の肯定的な評価の割合を上げるために、以下の2点を今後継続して行い、運動に関わる機会を増やす。 ア:さらに主体的に運動に取り組めるように、これまでとは異なる異学年交流等の工夫や進化した活動内容を取り入れたわんぱくタイムを体育委員会の企画・運営で行う。 イ:多くの児童が運動することの楽しさをさらに実感できるように体育の授業の準備運動をさらに工夫し、体づくりと運動に対する主体性を両面から向上させていく。 | ○ | | | ○今年度の「歯の取組」は、歯の健康について考えたよききっかけとなった。低年齢の虫歯や歯周病が増加する中、来年度は正しい磨き方やタイミングについてadvanceステージへと進めてほしい。 ○歯磨きの指導は来年度も再来年度も継続して頂きたい。 ○休憩の歯磨きが定着してきているのは、素晴らしい。手洗い場や教室に鏡をつけることで、客観的に自分の歯磨きを見られるとよいのではないかと。 |
| 健やかな体 生活習慣及び運動習慣の身に付いた児童の育成 | 自分力の土台づくり(生活習慣の定着) | 歯と口の健康に向けた活動の充実 ・学校医を招いての歯と口の授業 ・虫歯予防ポスターの作成 ・保健委員会を中心とした啓蒙活動 | 児童アンケートによる肯定的評価の割合「歯と口の健康のために、給食後自分から歯磨きをしている」 | 85%以上 | 1~3年生 89.2% 4~6年生 84.1% | 1~3年生 82.2% 4~6年生 86.3% | 1~3年生 96.7% 4~6年生 101.5% | B | 高学年は、目標値を達成することができたが、低学年は達成することができなかった。休み時間に早く遊びに行きたくて歯磨きをしない、完食を目指しているが、休憩時間が始まるなど、時間的な余裕がないことがこの結果につながっていると考えられる。来年度は、全校での歯磨きの習慣化の徹底を目指すためにも、各担任、養護教諭、保健給食委員会が共通認識を持ち、時間的な改善を視野に入れ、指導していく必要がある。 | ・歯磨きの重要性をより強く認識し、行動につなげ、肯定的な評価の割合を上げるために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:歯磨きの重要性をさらに認識するために、保健給食委員会が中心となって、歯磨きに関するクイズや声かけを行う。 イ:給食後の歯磨きを徹底するために、決まった時間に曲を流して全員で歯磨きを行う「み歯らっ子タイム」を設定する。 ウ:歯磨きをさらに楽しみながら取り組めるように、保健委員会主催の全校で行う取組を、定期的な実施し、表彰等で評価していく。 | ○ | | | |
| | 自分力・つながり力・ゆめ力の向上 | めざす子供像「ふるさと三原を愛する子供」に向けた、地域の強みに基づくクルー活動の充実 | 児童アンケートによる肯定的評価の割合 ①「三原のために自分の力を発揮したい」 ②「三原が好き」 | 85%以上 | 1~3年生 ①88.5% ②95.4% 4~6年生 ①92.3% ②96.8% | 1~3年生 ①90.4% ②94.4% 4~6年生 ①93.2% ②97.7% | 1~3年生 ①106.3% ②111% 4~6年生 ①109% ②114% | A | ①全学年で目標を達成することができた。CSボランティアとして保護者や身近な人だけでなく、地域の方々にも支えられていることを実感する機会が増えたと考えられる。しかし、強い肯定が低学年は48.8%、高学年は62.6%と、低学年に関して5割を下回った。 ②全学年で目標を達成することができた。三原が好きだと回答する児童が多いことは、人との関わりの中で、地域の良さを実感する機会が多かったためだと考えられる。 | ・大好きな三原のために自分の力を発揮したいという意識の向上を図るために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:多くの方に支えられていることをさらに実感できるように、三原小クルーに関する学年の活動、MLボランティアを、今後も計画的に実施する。 イ:地域の方々との関わりを増やすために、月に1度、CSルームを開き、地域と一緒に学びや遊びをする時間を設定する。 ウ:総合やMLボラで地域貢献活動を意図的に仕組み、肯定的評価を行う。 | ○ | | | ○コミュニティスクールが少しずつ浸透しており、地域を巻き込んだ学校運営及び学校中心のコミュニケーションが形成されて、よい方向に進んでいる。今後は各団体が同じように情報を共有し、共に活動できる環境を整えてほしい。 ○今後もさらに開かれた教育活動を展開し、地域や保護者の参加意識を高めて、豊かな教育活動を推進してほしい。そして、郷土への愛情を育ててほしい。 |
| 信頼される学校 保護者・地域から信頼される学校づくり | 働き方改革(次世代の働き方への体制づくり) | 業務の進捗管理の見える化 | 時間外勤務月45h以下を6か月以上実施 | 100% | — | 100.0% | 100.0% | A | 4月~12月までの9ヶ月間で時間外勤務月45h以下が6ヶ月以上になっている職員の割合は100%(29/29人)であった。目標は達成しているが、時間外勤務が多い職員は、主任の教諭や初任の教諭、行事担当の教諭であったため、来年度に向けて仕事の平準化を図ったり、引き続き初任者の支援を継続したりする必要がある。 | 来年度も全職員が目標を達成できるように以下の2点の取組を上記になっている職員の割合は100%(29/29人)であった。A年度末及び年度初めに部の年間計画の改善を主任を中心に、行い仕事の平準化と組織的計画的な推進ができるようにする。イ来年度から実施可能な働き方改革についての具体策を学年主任会で出し合い、取組を進める。 | ○ | | | |

【j:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ハ:わからない。
ロ:自己評価は適正でない。